

個人道徳の発達に関する研究 (7)

— 日中韓の大学生の領域別善悪判断の比較検討 —

○二宮 克美(愛知学院大学情報社会政策学部)・首藤 敏元(埼玉大学教育学部)・崔 順子(大真大学児童学科)
金 順子[#](大真大学児童学科)・藺 桂瑞[#](首都師範大学心理相談センター)

【問題および目的】 個人の自由と道徳的要素の両方が含まれる場面での判断と意思決定は、個人道徳(person-moral)の問題として研究されている。これまでの研究(二宮・首藤, 2001 ; 2002)をふまえ、新たに質問項目を加筆修正して、日本、中国、韓国の大学生を対象に調査を実施した。本報告(7)では、道徳、慣習、自己管理、個人、友達、外見の6領域での善悪判断とその判断理由の結果を中心に述べる。

【方法】<被調査者>日本の大学生 234 名(男子 112 名, 女子 122 名;平均年齢 19.6 歳), 中国の大学生 195 名(男子 56 名, 女子 139 名;平均年齢 20.9 歳)ならびに韓国の大学生 217 名(男 79 名, 女子 138 名;平均年齢 20.2 歳)の合計 646 名(男子 247 名, 女子 399 名;平均年齢 20.2 歳)である。<調査時期> 2001 年9月～11 月。

<調査項目> 道徳(親の財布から黙ってお金をとる等の 3 項目), 慣習(食事の時, ひじを食卓にのせて食べる等の 3 項目), 自己管理(やせようと思いい, 1日に1回しか食事をとらない等の 3 項目), 個人(アダルトマンガ(成人向けのアニメ)を好む等の 3 項目), 友達(遊び人を友達にもつ等の 3 項目), 外見(男子が耳にピアスをする等の 3 項目)に対して, 「絶対に悪い」, 「悪いときもある」, 「悪くない」の 3 件法で聞いた。次に判断理由として, 下記の 6 つの理由の中に考慮した事柄があるかをどうかを複数回答でたずねた。「1:人の幸福を壊したり権利を侵したりしていないか」「2:社会の公正・正義が守られているか」「3:習慣, 決まり, 法律を守っているか」「4:学生としての立場や役割を守っているか」「5:自分を大切にしているか」「6:個性や自由が大切にされているか」の 6 つである。

【結果および考察】1. 領域別善悪判断: 6 つの領域ごとの善悪判断を図 1 に示した。日本, 中国, 韓国ともに道徳領域の行為を最も悪いと判断している。友達や外見の領域では得点が低い。道徳領域では 3 ケ国にあまり差は見られないが, それ以外の領域では, 中国, 韓国, 日本の順に得点が低く

なっている(国別の主効果($p<.001$))。報告(1)の日中大学生の結果と同じ結果が得られていると同時に, 韓国の大学生が両者の中間に位置することが読み取れる。

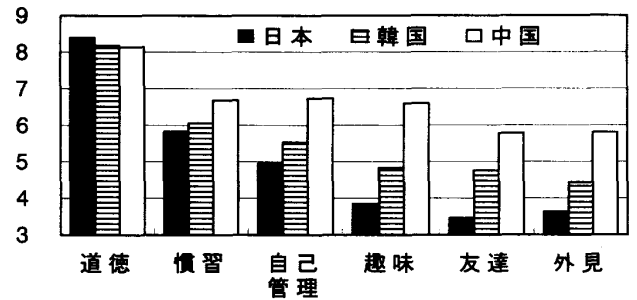


図1. 領域別善悪判断(男女込み)

2. 判断理由: 道徳領域の結果を図 2 に示した。日本と韓国は 2:公正正義を, 中国は 3:習慣法律を最も多く選択していることがわかる。また, 中国の大学生が 5:自分大切という理由を, 日本や韓国に比べ多く選択していることも指摘できる。3 ケ国の大学生がともに, 道徳領域の行為が最も悪いと判断してはいるものの, その理由には違いが見られることがわかる。慣習領域では 3 ケ国とも 3:習慣法律を最も多く選択していた(日本: 49.9 %, 韓国: 47.5 %, 中国: 37.9 %)。この領域でも, 中国の大学生は 5:自分大切を選択することが多かった(31.6 %)。自己管理と自己の領域では, 3 ケ国とも 5:自分大切を最も多く選択していた(すべて 40 %台)。友達と外見の領域では, 3 ケ国とも 6:個性自由を最も多く選択していた。特に, 日本の大学生がいずれの領域でもこの 6 を 7 割以上選択していた。領域によって異なる判断理由を考慮していると言える。

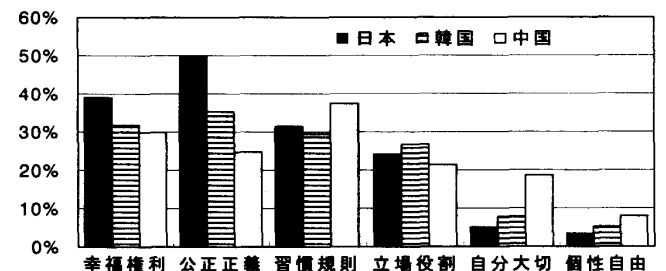


図2. 道徳領域の判断理由(男女込み)

<付記:科研費・基盤研究(B)(2)12571008の補助を受けた>